

2017 茨城レフェリートレセン 夏期

7月23日(日)に土浦工業高校にてレフェリートレセンを開催しました。午前中は時折小雨が降る中でプラクティカルトレーニング、午後は座学を行いました。

土浦工業高校サッカー部の皆様には、プラクティカルトレーニングにおけるデモンストレーターとしてご協力頂きました。

＜参加トレセン担当＞

宮島一代、井脇真理子、塚越由貴、柿沼亨、西尾英朗

プラクティカルトレーニング

【協力関係】

ペナルティーエリア付近での事象について判定し、判定時の主審と副審との協力関係について確認

- ・ 笛を吹く、旗を上げるタイミング
- ・ 旗を上げるかどうかの判断
- ・ 意思疎通(アイコンタクト)etc.



【オフサイドテスト】

FWとDFの入れ替わる状況でボールが蹴られオフサイドかどうかの判定を行う。それを撮影してコマ送りでチェック

- ・ オンサイドをオフサイドとするエラーが多い
原因分析⇒ポジショニング、体の向き、視野の使い方 etc.
- ・ 認識したものと事実とのギャップの認識(フラッシュラグ)
生理的にギャップは生じる⇒ギャップの程度を感覚として把握

座学

【競技規則の改正】

JFAのホームページで公開されている映像等を使用して説明し、主に次の2点について重点的に確認を行いました。



- ① ボールをプレーしようとして反則を犯して、大きなチャンスとなる攻撃を阻止した結果、ペナルティキックが与えられた場合、警告とならない
⇒ボールをプレーしようとして反則を犯したか、ペナルティーエリアの内か外か、決定的得点の機会か大きなチャンスか、を瞬時に把握して適切な処置を

② ペナルティキックでゴールキーパーとキッカーの両方が同時に反則を犯し、ボールがゴールに…

- ・ 入らなかった場合 ・ ・ 両方の競技者は警告⇒キックはやり直し
 - ・ いった場合 ・ ・ ・ ・ キッカーは警告⇒守備側チームの間接フリーキック
- ⇒理屈として、ゴールキーパーは入れられた方が得、キッカーは入れない方が得という部分もあるが、適切な対応が出来るように整理しておく

【ビデオクリップ 20 シーン】



ハンド、オフサイド(GKへの妨害)、ファウル(警告、退場含め)などのシーンについて確認を行いました。

判定は瞬時に様々な要素を総合的に判断して行いますが、判定を行うために考えなければ(感じなければ)ならない要素について幅を拡げることに繋がられたと思います。

プラクティカルトレーニングでは、日常トレーニングの個人では取り組めない試合で起るシーンを想定した実践的なトレーニングを行うことが出来ました。座学においては、他の審判員と集まり、意見交換しながら進めることによって、より集中して知識の習得に励めたと思います。

また、トレセン担当である1級・女子1級審判員の経験に基づいたアドバイスや意見等も、参加した審判員が今後のレフェリング技術の向上に役に立てただけならトレセン担当としても励みになります。

引続き定期的にトレセンを開催していきたいと考えています。次回のトレセンは、年明けの1月に1級キャンプと併せて行う予定です。

